



▲「平成28年には合戦場に大型バスが320台訪れました。全国に誇れる観光資源があることを知ってほしいです」

小浜で木材加工業を営み、岩代観光協会の会長を務める三浦勝眞さん。観光協会のほかにも数種類の団体の顧問や会長を務める三浦さんに、岩代への思いや未来へのビジョン、抱負等についてお話を伺いました。

「十年後、二十年後を見据えながら、希望をもって岩代の歴史的遺産や魅力を発信していきます」  
〜三浦勝眞さん〜



Q 岩代の観光資源とは？

岩代の観光資源といえば「合戦場のしだれ桜」が一番に挙げられます。私が岩代観光協会会長職を引き継いだのが平成二十一年。合戦場のしだれ桜が各種メディアで紹介され、観光客が増えてきた時期でした。最も多かった年には年間約十万人の来訪があったと記憶しています。その後、東日本大震災が起これ、何年か経て徐々に盛り返してきたかなという頃に、今度はコロナ禍に見舞われ、観光バスでの来訪が激減しましたが、昨年は家族や友人と訪れる人が増えて、少しずつ元の賑わいが戻ってきたような気がします。

Q その他の岩代の魅力とは？

桜以外にも杉沢の大杉、東禅寺の夫婦杉、片倉の梨の木をはじめ、岩代には全国に誇れる自然遺産が豊富にあります。

また、小浜には若き伊達政宗と父輝宗が居城した小浜城と宮森城があり、宮森城は歴史的事件「粟ノ巢の変」の発端となった場所でもあります。さらに百目木は近世に宿駅として栄え、絵師の安藤広重が滞在し「陸奥

★岩代の未来のために★  
一人一人の支えが大きな力です

岩代観光協会・新規会員 募集中！

岩代観光協会では新規会員を募集しています。ちなみに現在の会員数は179名。会費は桜祭りやイベント、広告料等に活用しています。一人一人の力はわずかでも人数が集まれば大きな力になります。岩代の明るい未来のために、観光協会へのご協力をお願いいたします。

★個人会員 年会費 1口 1,000円～  
会費を納入いただいた方には、道の駅「さくらの郷」の“ごんぼコロッケ2個”引換券（260円相当）を進呈します。新規会員には岩代のオリジナルミニバッグもプレゼントします（※法人会員制度もありますので、興味のある方はお問い合わせください）。

☎0243-65-2803  
(岩代支所地域振興課)

▶ごんぼコロッケとの引換券以外にも、「さくらの郷」の金券として使用できます。



▲光に彩られた合戦場のしだれ桜

切な役割の一つと感じています。

Q 未来への抱負や夢は？

私の愛読書の一つに『未来の年表』（河合雅司著、講談社刊）があります。この本の中で論じられている人口減少と少子高齢化は、岩代においても避けられない課題です。だからといって未来に希望がもてないかというと、決してそうではありません。コロナ禍が続いている今、自然回帰の流れが生まれ、地方や自然の中で過ごすことの価値を見直す人々が増えていきます。そんな時代の動きの中で、希望を胸に岩代の魅力を全国に発信していきたいと思えます。



▲石造りの鳥居と3層の石段が美しい三渡神社

岩代を愛する人がおすすめる地元の魅力スポットを紹介。十五回目は、杉沢の三渡神社・総代、佐藤清一さんです。

I Love Iwashiro ⑮  
杉沢・三渡神社

さくらの郷の恒例行事  
＜寒ざらしそば祭り＞

今年も「さくらの郷」名物、寒ざらしそばの仕込みが始まりました。日山から流れる冷たい川の水に1週間程浸したそばの実ですが、乾燥させる過程で凍ったり溶けたりしながら甘みと風味が増すといわれています。そば祭りは下記日程で開催します。

＜開催日＞3月12日(土)・13日(日)

＜時間＞10時～15時頃まで

＜問い合わせ先＞「さくらの郷」

☎68-4770

※両日とも、そばがなくなり次第、終了となります。



▲均一にそばの実をかき混ぜて乾燥させる

「さくらの郷で  
そばカフェタイムを  
始めます！」

- ★カフェメニュー
- \*そば茶
- \*そばの実汁粉
- ★3月中旬～4月頃
- ★曜日限定：  
午後2時～4時頃



※詳細については、上記「さくらの郷」・地域おこし協力隊 内山隊員までお問合せください！

岩代の歴史シリーズ

「塩の道」⑦

今まで紹介した奥州西海道の他にも浜からの道には小高・南津島・田沢・百目木經由三春相馬海道がある。これもまた旧岩代町を通った「塩の道」である。奥州探題が置かれ、東安達の中心として、塩の道の交通の要衝、蚕、絹などの流通の要衝として栄えていた小浜であるが、昭和四年からの世界大恐慌により養蚕や製糸業が大打撃を受け、さらに太平洋戦争、小浜町大火（小浜市街地の大半が焼失した）により交通・商業の要衝としての役割が変化し、さらに、産業構造が農業から工業へと変化、大量輸送・高速輸送の時代に変わり、鉄道、国道や高速道路の整備など、新たな交通網が整備され、鉄道沿線へ人口、産業基盤が集中していくのである。交通が便利になればなるほど「小浜の町に帯買いに」と歌われた小浜の町は衰退していったのである。しかし、時代はめぐるのである。

※小浜の歴史を語るうえで大変残念なのは、小浜町大火により貴重な歴史的資料が焼失してしまったことである。塩の道の新発見があったかもしれない。

◇紹介してくれた方◇  
三渡神社・総代  
佐藤清一さん

「祭りの日は三渡神社にて愛宕神社の三匹獅子の舞の奉納も行われます。見学においでください」



そんな自分成長し舞手となり、すでに四十八年が過ぎ去りました。三十種類以上の舞の振り付けを全部覚えることはできませんが、杉沢の伝統芸能です。体力の続く限り踊りたいと思います。コロナ禍で二年ほど太々神楽の一般公開はされていませんが、今年の十一月三日には祭りが行われるよう願っています。



▲太々神楽の舞台、神楽殿



▲春には鳥居脇の参宮桜が咲き誇る

三渡神社は八〇六年、菅野沢村の開村の際に鎮守として祀られたといわれ、記録に残るなかでは岩代地域で最も古い神社とされます。祭神は天之水分神・天之村雲神・国之水分神の三神ですが、地元では主に水の神様として伝えられています。私が幼い頃の神社の思い出は、秋祭りの賑やかな光景です。色々な出店が並び、人もたくさんあり、子ども心にもわくわくした記憶が蘇ります。また、太々神楽の多様性と神秘に魅せられ、神話の世界観に触れたのも、この祭りでした。